

講演「あなたは本当に韓国を知ってる!? 日韓の違いと近似性」

(要旨、日韓文化交流基金 NEWS81 号に掲載)

2016年11月28日

権鎔大氏 (NPO 法人日韓交流祭り協会事務局長)

市民と政治

11月下旬現在、韓国の政治状況を見てみると、朴槿恵大統領の弾劾を求めるデモが全国で行われており、一向にやむ気配がありません。このような状況から旬な話題として韓国における市民と政治について触れてみたいと思います。

このような大規模な市民参加デモは今に始まったことではありません。

現代史(戦後)を見ても、60年代から李承晩政権が市民や学生を中心にしたデモにより退陣させられ、80年代には、長く続いた軍事政権から同じく市民、学生たちのデモと訴えにより、民主化が成し遂げられました。そして、最近は市民たちによる「ロウソクデモ」というように、市民たちの力によって政治を動かしてきました。

ではなぜ韓国人がこんなに政治に関心があるかという点、その地政学的な位置が大きく影響しています。海に守られた日本に比べ、韓国は大陸と島(日本)の懸け橋という特徴を持った半島国家という性格上、大陸や海洋から外敵に攻められることが当たり前のよう存在していました。その為、国を外敵から守る強力なリーダーシップを必要としその体制(中央集権制)が整えられました。指導者がその責任を果たしているのかどうか常に関心を持つ事イコール政治への関心につながるのです。

指導者に権力を集中させることは一歩間違えると民衆への弾圧につながるため政治への関心とともに抵抗権を持つとします。

韓国には憲法よりも上位となり、優先される法律でない法律が存在します。一つ目が「ごね得」法です。これは何か問題があっても、抵抗すれば(ごねれば)何とかなるという考え方があります。一般的に韓国社会では、国民は力のあるものによって虐げられてきた歴史もあり、抵抗すれば何とかなるというものです。

「ごね得」法のさらに上位にあるのが、「国民情緒」法です。ある事柄が、いくら憲法や法的に合致していたとしても、国民情緒にそぐわない内容であれば、法よりも情緒が優るといえるものです。端的な例が日本大使館前に設置されている慰安婦像の問題です。法的にみると像の設置は道路法違反なのですが、国民情緒においては像の道路法違反よりもさらに大きな問題があるため、容易に撤去できないのです。

人との付き合い方①「우리(ウリ)」に表れる韓国人の距離感

韓国の人との付き合いを通してよく聞く言葉で「우리(ウリ)」という言葉があります。日本語では、「私たち、私たちの」と訳されるのですが、日本語で使う場合とは少し意味が違って使われます。

すでに韓国の人たちとの交流において経験された方も多いかと思いますが、韓国では初対面の人に会ったときに、非常に個人的な事柄まで根掘り葉掘り質問されたということがあったのではないのでしょうか。これは、初対面の人と接した際に、相手の情報をいろいろと聞きだし、この相手は自分にとって、味方か敵か判断するためのものなのです。その際、もし相手が味方と判断できれば、「ウリ」の範疇に入る人として、最大限の配慮をもって接するようになるのです。一方、「ウリ」には入らない敵方であると判断した場合には、例えば道すがらお互いの肩がぶつかっても、素知らぬ顔で通り過ぎて行ってしまうというようになるのです。

この「ウリ」は、友人同士というような親しい間柄でも存在しますが、日韓においては、距離感の微妙な違いを表すことにもなります。

韓国人留学生とルームシェアをしている日本人学生から聞いた話ですが、韓国の学生は、日本人学生の持っている物であるにも構わず、自分の物のように使うことがあり、困っているというような内容です。韓国では、「ウリ」の範疇に入る友人同士であれば気兼ねすることなく、お互いのものを貸し借りするのです。このような人との距離感覚においても違いがあります。

特に日韓間では、西洋の人とは違って外見などが似ており、文化、習慣も近いので自分の方式で行動したり話したりすると微妙な違いに気付かず行き違いや誤解が生じます。アメリカ人のように最初から明らかに違うなら割り切って考えて接するのですが、顔かたちが似ているとつい自分の物差しで考え行動するので、折角の行為があだになる事が日韓の溝を深めてしまうのです。『似てるけど違うんだという事を知ること』が日韓にとって一番大切なことではないでしょうか。

人との付き合い方②愛情表現などの違いについて

ヨン様登場以来、日本では韓流ブームが続いて久しいですが、このことを通して日韓の違いが分かります。愛情表現について日韓の違いこそが、日本人たちを魅了しているのではないかと言う事です。

ご存知の通り、韓国では、愛情はもちろん、感情を表す際に激しく表現します。派手に、はっきりと表現するのです。一見すると荒っぽさがあるのですが、感情を率直に表現するのです。一方、日本は、相手を傷つけないためにハッキリ表現しないのが美德とされています。韓国のように激しく感情、愛情を表現することをあまりしないので愛情を受ける方はもどかしさやもの足りなさを感じ、韓国の男性にあるいは韓国ドラマに軍配を上げたのではないのでしょうか。このような感情表現の違いから、韓国の映画やドラマを見た日本人たちの目に、韓国の激しさが新鮮に映り、韓流ブームへとつながったのではないのでしょうか。

言葉によって生きる韓国人

次に韓国の人たちと言葉について、いくつかの事例を挙げて話してみたいと思います。まずは、儒教が韓国の言語表現に与えた影響についてです。儒教では話をして相手を納得させる、論理で勝ち抜くことが大切とされていて、自分の主張をしなくてはいけなくて、主張することで生きるチャンスが生まれ、自分が磨かれるとされています。そういったこともあり、人との接し方や表情も日本とは異なります。

次に漢字表現についてです。「是非」という言葉がありますが、日本では主に「良くも悪くもそうでなくても」、「是非を問わない」というような意味でつかわれますが、韓国では「良し悪しをはっきりさせよう」といった場面で使います。良し悪しをはっきりするためにはよいと主張する論理を考え出さなければならず、また相手を打ち負かすレトリックも開発しなければなりません。このような点から韓国人は理屈っぽくてうるさいとみられることもあります。

次に「愛人」ですが、日本では不適切な男女間の関係において使われますが、韓国では、日本語でいう「恋人」の意味になります。同じ漢字表記を使っているながらも、使われ方や意味においては日韓での微妙な違いを見つけることができます。

言葉以外に行動様式においても、日韓における違いがあります。

日本では、一つの場所に留まることや、一つの事を守り続けることが評価されます。たとえば、創業から 300 年、400 年と伝統を守り続ける老舗が評価されますが、韓国では、いくら流行った店であっても、子や孫へと代々受け継いでいくと言う事はしません。韓国では、新しさを求める気持ちや上昇志向が強く、どれほど繁盛している店などであっても、店を継ぐよりは、良い大学で学び、政治家やリーダーといった上位を目指す傾向が強いのです。いわゆる地政学からくる強い中央集権志向と与えられたところで最善を尽くす（一所懸命）地方分権的な名残を残す日本との違いかもしれません。

違いを認識することの大切さ

今回はいくつかの事例を挙げて、日韓の違いと近似性について述べましたが、大切なことは、それぞれの違いを認識することです。そして歴史や風土が異なる日韓両国が持つ長所、短所を理解し併せ持つことができれば、日韓両国はアジアのみならず、世界において重要な役割を果たしていけるのではないかと思います。

(了)